

令和7年度 かほく市立金津小学校 学校評価中間報告書

経営目標	取組内容	主担当	(昨年度末最終達成状況) 現 状	評価の観点	達成度判断基準	備考	取組状況	達成度(判定)	後期の方向性 (改善計画等)	学校関係者評価者(学校運営協議会委員)による意見	
1 学力の向上	ア 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一休美に向け、授業改善を図る。	学習指導(閑)	(A: 90%以上)	【努力指標】個に応じた指導や支援を行うため、考え方をもつ時間や場を設定して、学び合いにつなげることができる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合、要因を明らかにして、重点の再確認・検討をする。	教員自己評価	・どの学級においても、児童の実態に応じてゴールを明確に示し、見通しを持たせる手立てをとることができた。	100% (1:40%) (2:60%)	A ・相互参観週間や研究授業の機会を生かしながら、教員同士でさらに高め合えるようにする。	
			(B: 80%以上)	【成果指標】5つの項目について、児童は常に意識し、一定の定着率に達している。	「あさはよしを意識して学習に取り組むことができた」と回答する児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。	児童アンケート	・昨年度に定着していたこともあり、「あさはよし」の意識をもつことができている。教員もあさはよしの指導を通じて行っている。	90.9% (1:63.6%) (2:27.3%) (3:5.5%) (4:3.6%)	A ・掲示に花丸等のマークを貼ることで児童の頃張りを価値づけるとともに、児童にさらに意識づけさせていく。	
			(A: 年間7回以上)	【努力指標】考え方を交流する場面や学習を深める場面でICTを活用することができる。	ICT活用についての授業実践研修会を A: 年間7回以上 B: 年間6回以上 C: 年間5回以上 D: 年間4回以下	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	GIGA校内研修会	・月1回のICTを用いた公開授業を通して、効果的な活用方法を学んだり、活用しようとするとする気持ちを高めている。	(9/10時 点3回)	A ・月1回程度の公開研修を今後も継続して行っていく。	
	ア 1人1台端末の積極的な活用で効果的な学習に努める。	GIGA推進(北)	(A: 90%以上)	【努力指標】考え方を交流する場面や学習を深める場面でICTを活用することができる。	【満足度指標】1人1台端末を使った授業が楽しいと感じている。	楽しいと感じている児童が A: 90%以上 B: 85%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。	児童アンケート	・児童は端末の利活用について肯定的に捉えている。夏季休業中に通信環境が改善し、より活用しやすくなかった。	98.2% (1:80%) (2:18.2%) (3:1.8%)	A ・自己決定を通してよりよい学び方を身に付けられるよう、積極的、意図的な活用を行う。
			(B: 80%以上)	【努力指標】カリキュラム・マネジメントの柱「自ら考え行動する力の育成」を意識して、指導を行っている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 80%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価	・探究的な活動の流れが児童にも定着しており、問題設定を児童とともに共有することができた。また、単元を通して、見通しをもった活動がでできている。	100% (1:60%) (2:40%)	A ・児童とつけていた力をはじめに確認することや振り返りの仕方をもっと充実させていきたい。	
2 生徒指導の推進	ア 「めあて」や「きまり」に対する自己評価を定期的にを行い、よりよい行動への意識と実践力を高める。	生徒指導(桃田)	(A: 90%以上)	【成果指標】生活目標の取り組み方に慣れてきている。学校生活の生活習慣一部のよくなっているところについてほしいので、継続していく。	生活目標のふり返りにおいて、児童肯定的な評価をする児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組項目や方法について再検討する。	生活目標集計表	・生活目標の達成に向けて、前向きに取り組んでいます。(4月)うろこ階段を正しく歩こうについては、6年児童の自己評価が低かった。	94.0% (4月:90%) (5月:100%) (6月:83%) (7月:97%)	A ・6月と同様の取組を2月に計画しているので、児童が主体的に企画し取組を行うことで、改善を図る。	
			(B: 90%以上)	【成果指標】自己のよき生活習慣の定着に取り組んでいる。	肯定的な評価をする児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート	・ゲームやインターネットの利用については、保護者アンケートと児童アンケート別紙参考)で回答内容に差が見られた。	90.9% (1:60%) (2:30.9%) (3:9.1%)	A ・目標を達成できていない児童に着目し、特にメティアとの付き合い方にについて、考える機会を設ける。生徒指導により啓発を図る。		
			(C: 90%以上)	【努力指標】よさを認める場の設定や、よさを伝えることに積極的に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、自主的・実践的態度を育成するための手立てについて、再検討、工夫を講じる。	教員自己評価	・授業や帰りの会でのいいところを見つけを行い、互いに認め合う雰囲気が醸成されている。	100% (1:100%)	A ・今後も継続していく。11月頃から、振り返りの活動を通して自己理解を深め、適切に自己評価できる力を育む。	
	イ 生徒指導の視点に沿った教育活動を通して、自信を大切にする心情を育成する。	生徒指導(山口)	(A: 90%以上)	【成果指標】児童は、自分のよさに気づいている。	「自分にはよいところがある」と回答する児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	児童アンケート	・児童は、いいところ見つけや教師からの他者評価を受け取ることができており、自信をもって活動することができている。	90.9% (1:56.4%) (2:34.5%) (3:5.5%) (4:3.6%)	A ・児童の活躍できる場を設定したり、コミュニケーション・トレーニングを継続したりしていく。		
			(B: 80%以上)	【努力指標】安心して過ごせる学校をさらに目指して、人の気持ちを考える機会をさらに設けたり、児童に素敵な姿を伝え、広めていく。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価	・週1回のミニ校内支援委員会や日頃の会話で情報交換を密に行い、児童理解と共通実践に生かしている。	100% (1:90%) (2:10%)	A ・今後も情報交換をしながら児童理解に努め、不登校などの予防をするとともに、現在困っている児童の支援を継続していく。	
ウ ★ 特別支援教育についての理解を深め、だれもが安心して学べる環境を整える。(SSRの活用)	生徒指導(山口)	(A: 90%以上)	【努力指標】個別に最適な学習の進め方や児童主導の授業スタイルにチャレンジしていく。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価	・自分で考えるつくる授業、行事を通して、自己効力感が育つできている。	100% (1:90%) (2:10%)	A ・今後も児童主体の授業、生徒指導の4機能を活かした授業を意識して行っていく。		

3	情操豊かな心の育成	ア 道徳の授業を中心に、道徳教育の推進を図り、道徳性を養う。	道徳教育推進教師(瀧田)	(A: 90%以上) ・別れた絵を見なおし、重点目標について意識し指導できるようにしていく。 ・地域とも連携し、ゲストティーチャーを招く機会を設けていく。	【努力指標】道徳の授業づくりを工夫する。 ア 中心発問の吟味 イ 言語活動の充実 ウ 値徳の自覺化 エ 進導指示の着積	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、道徳の授業展開の再検討を図る。	教員自己評価	・重石目標について行動等と絡めながら、日頃から意識して指導できるようにしていく。 ・学年だよりに道徳の授業実践を載せて家庭に知らせ活動を継続する。 ・3年生以上で組合せ1・2年の学年で「金津の森」を活用するところがで、それを他の学年にも合った取り組みができるといふ期待感を高めることができた。	100% (1:50%) (2:50%)	A	・ゲストティーチャーを招聘し、より充実した授業をめざしていく。	・改善計画どおりにお願いしたい。
		イ 「金津の森」を活用した自然体験活動や、講師を招いての文化的体験活動、交流活動に取り組み、豊かな感性を養う。	教務(釜井)	(A: 90%以上) ・年間を通して「金津の森活用計画」を推進することができた。高学年の金津の森プロジェクトは下級生の目にも触れるので、いかほは自分たちもできるという期待感を高めることができた。 ・3・4歳生が新たに「金津の森」を発信していく手立てを考え、計画を具体化することができた。	【成果指標】「金津の森活用計画」に基づき概ね活動できている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、その要因を明らかにし、「金津の森活用計画」の内容について再検討する。	教員自己評価	・金津の森を活用するにあたって、系統的な活用の仕方ができるよう調整していただきたい。	100% (1:60%) (2:40%)	A	・金津の森を活用するにあたって、系統的な活用の仕方ができるよう調整していただきたい。	
		ウ 幼小連携では園との交流会の設定、小中連携では授業参観や情報の共有等を通して、幼・小・中のスムーズな接続を推進する。	教務(釜井)	(A: 90%以上) ・幼小連携では、交流活動を通して園児との円滑な接続を図ることができた。 ・小中連携では、合同の活動や情報交換を通して学びをつなげていくことができた。	【努力指標】講師等を招き、体験活動の充実に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、体験活動等の取組について、検討、改善を行つ。	教員自己評価	・どんな方が講師として招聘できるのかが明らかにし、必要な学年は講師を招聘することができた。	100% (1:100%)	A	・どんな方が講師として招聘できるのかが明らかにし、必要な学年は講師を招聘することができた。	
4	健康と体力の向上	ア 「体力アップ1校1プラン」をもとに、体育の授業や「風っ子タイム」を通して体力向上の目標達成に努める。	特別活動体力づくり(北)	(A: 90%以上) ・今後も教科体育と体育行事を軸にしながら、楽しみながら児童の体力向上させることができるようにしていく。 ・今後も、風っ子タイムで運動に親しむ機会を設け、運動が楽しいと思える児童を育てていく。	【努力指標】教科体育において、課題となる運動能力の強化を含め、体力向上に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行つ。	教員自己評価	・幼小連携においては、交流活動を行うことで、相互理解を深めることができた。小中連携では、児童の運動に対する情報交換を通じて、実感の把握を図ることができた。	100% (1:70%) (2:30%)	A	・幼小の継続的な交流活動や授業参観を通して、円滑な接続を図る。小中では、授業参観を通して学びをつなげていくようになる。	・(運動会において)成果が出なかった児童についても、そのがんばりを認める働き掛けを教職員にお願いしたい。(児童同士での認め合いを感じられる)
		イ 健康課題の解決のための継続的な取組を実施するとともに、家庭と連携を図った強化週間を設定する。	保健安全(山本)	(A: 90%以上) ・基本的な生活習慣の確立のために、家庭との連携を図った強化週間を設定する。 ・生活習慣の基盤である「早寝早起き朝ご飯・歯みがき」について関係機関(学校医・栄養教諭等)と連携した指導の充実を図る(保護者参観型形式など)。	【努力指標】児童が主体的によい生活習慣づくりに取り組むために、家庭や関係機関(学校医や栄養教諭等)と連携した指導の充実を図っている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行つ。	教員自己評価	・つけた目標を明確にし、達成感の感じられる授業開発に取り組んでいる。	100% (1:50%) (2:50%)	A	・今後も教科体育と体育行事を軸にしながら、楽しみながる児童の体力を向上させることができるようにしていく。	
		ウ 健康課題の解決のための継続的な取組を実施するとともに、家庭と連携を図った強化週間を設定する。	保健安全(山本)	(A: 90%以上) ・家庭の協力を得て、児童は基本的な生活習慣を送ろうと取り組んでいる。	【成果指標】家庭の協力を得て、児童は基本的な生活習慣を送ろうと取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行つ。	教員自己評価	・6月に保護者参観型の学校歯科による歯みがき教室を実施した。	100% (1:70%) (2:30%)	A	・児童の健康課題を捉え、地域資源を活用した取組を入れていく。後期は大学職員による性教育を実施する予定である。	
5	家庭や地域から信頼される学校づくりの推進	ア 各種たよりやホームページ等により、積極的に学校の情報を発信する。	教頭(遠田)情報(北)	(A: 90%以上) ・コドモンでは、スマートフォンで見る保護者も多いと思われたため、スマートフォンでも見やすいように写真を多入れたり、文字の大さくに配慮したりして便りを心掛けていく。 ・今後も計画的に記載や更新を行っていく。また、ホームページの更新も保護者に伝えていく。	【努力・満足度指標】HPや学校たより等各種たよりで、学校の情報を発信している。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Bの場合には、取組について、検討、改善を行つ。	教員自己評価	・コドモン(電子媒体)の活用により、保護者に対する情報発信をさかんに行っている。ホームページの更新も積極的に行っているが、地域への発信について、工夫が必要である。	100% (1:80%) (2:20%)	A	・学生だよの他、校務分掌から連絡を発出するなど、発信内容を工夫する。	・改善計画どおりにお願いしたい。
		ア 効率的効果的な働き方を意識した業務内容の見直し、及び定期時退校日、学校閉庁日の意識化を図り、時間外勤務時間80時間減えゼロ、年間360時間以下を目指す。	教頭(遠田)	(A: 90%以上) ・勤務時間管理を意識した働き方を促すことで、業務改善の意識を高めるとともに、教職に対するやりがいを持てるような職場づくりを目指していく。	【成果指標】業務改善の取組が勤務時間の改善に表れている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行つ。	教員自己評価	・時間外勤務時間は適正であるが、多くの業務を短時間でこなすことに負荷を感じる職員が多いと考えられる。	90% (1:10%) (2:80%) (3:10%)	A	・職員同士がやりがいを共有できるよう、職員室の環境づくりに努める。	
		ウ 学級経営や学校運営への参画意識を高められるようPDCAサイクルを意識した提案と達成状況の把握、責任を持った業務の遂行に努める。	教頭(遠田)	(A: 90%以上) ・今後も、会員の共通理解、共通行動が図られるよう、各担当がわかりやすい提案に努めていく。PDCAについても、特に検証・改善を確実に行い、さらによりよいものにしていく。	【努力指標】PDCAサイクルを意識して、担当業務を進めている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	Cの場合には、取組について、指導、改善を行つ。	教員自己評価	・行事の運営や学校研究などでPDCAを意識した取組を行っている。	100% (1:50%) (2:50%)	A	・意図的に立ち止まって考える機会をつくり、担当者だけでなく、組織で検証・改善を行つ。	